

この学校にわたしたち

2022. 10. 7

N035

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から①

本年4月19日（火）に、小学校6年生と中学校3年生を対象にした全国学力・学習状況調査（以下、学力調査）が実施されました。この調査には、学力についての「教科に関する調査」と、学習状況についての「質問紙調査」があります。このうち「教科に関する調査」について一以前は、主に知識に関する問題（A）と主に活用に関する問題（B）に分けて出題されていました。一昨年度からは、知識に関する問題と活用に関する問題が一体的に問われる形となり実施されています。

- 1 令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果は下記表のとおりでした。
【令和4年度全国学力・学習状況調査結果・平均正答率】

平均正答率	国 語	算 数	理 科
本 校	58%	58%	67%
三重県	65%	62%	63%
全 国	65.60%	63.20%	63.30%

- 2 出題の範囲や内容については以下のとおりでした。
- ・ 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項
 - ・ 出題内容：下記の(1)と(2)を一体的に問う。
 - (1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - (2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

【全国学調について】この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で行われています。また、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

- 3 本校児童の傾向性や授業での対応について
本校児童の傾向性や授業での対応につきましては次号でお知らせさせていただきます。

この学校にわたしたち

2022. 10. 11

N036

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から ②

三重県や全国の正答率と比較すると国語・算数は低く、理科ではやや高いという結果となりました。

国語

《課題となる部分》

「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する」「目的や意図に応じて理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」といったように与えられた条件に合わせて文章を書く力を問う問題の正解率が低い結果となりました。

また、叙述（暗示的な表現を含む）を手がかりに登場人物の心情をとらえることに関する問題の正解率が低い結果となりました。

《今後に向けて》

授業では、文の構成を理解し、キーワードとなる言葉をみつけ、何についてどのように描かれているのかを読み取ることを大切にしたい指導を行っていきます。字数を制限し、要点をまとめて書く（話す）、読み取ったことをもとに自分の考えを書く（話す）という表現活動を重視した指導を行っていきます。また、語彙を増やすために教科書の最後にある「言葉の宝箱」を使った学習を行うとともに、各学年に応じ、読書活動を推進していきます。

算数

《課題となる部分》

「最小公倍数」「ひし形」「割合」「比例」など算数用語の定義や性質の理解を問う問題で低い結果となりました。また、式や言葉を使って考えを表すことを問う問題で低い結果となりました。

《今後に向けて》

授業では単に答えを求めることのみに終始せず、図や式、数直線等を活用しながら自分の考えを他者に伝える活動を積極的に取り入れていきます。図形についてはその定義や性質を確実に定着できるよう教室に掲示をしておくようにしていきます。また少人数学級の特性をフルに生かしながら共に学びあう授業づくりを行っていきます。

理科

《課題となる部分》

観察や実験についての知識やその結果をもとに自分の考えをまとめることを問う問題では三重県や全国を上回る結果となりました。これは日常での学習時間における観察や実験に関心をもって臨んでおり、また、授業の終わりにその結果について考え、自分でまとめたことを話し合う活動の成果であると考えられます。一方で実験器具の名称など基礎的な知識を問う問題で低い結果となりました。

《今後に向けて》

今後も観察や実験を大切にしながら、各自が予想や考察などをまとめ、それをもとに話し合う機会を多く取り入れていくとともに、基礎的な内容について確実に指導をしていきます